

発行所 全日本建設交通一般労働組合  
栃木県本部  
〒327-0315 栃木県佐野市吉水駅前1-2-1  
TEL 0283-62-7312 fax 0283-62-7318  
E-mail: dqj06744@nifty.com  
<http://www.kenkourou.or.jp/>

# CTG ぎ 建交労 とちぎ

## 原油高騰・資材不足が現場を直撃 政府は早急に具体的な対策を！

中東情勢

### 組合員の仕事に影響広がる

米国の無法なイラン攻撃により石油製品の供給混乱が拡大、組合員の仕事と生活には深刻な影響が広がっています。

政府は「原油は確保しているから大丈夫」と無責任な発言を繰り返しています。現場に来て実態調査をすべきです。そして早急に具体的な対策を！

須藤清治さん（建築）  
「大手のハウスメーカーは在庫あるはず。中小零細になるほど抱えられないから厳しくなる。ナフサ原料の塩ビ系はあっても高い。食品も上がるしこの状態が続くとみんなおかしくなるよ」

今井さん（仮名ダンプ）  
「4月事故って修理に入れたんだけどどこも待機車がいっぱい受けて入れてくれない。待機してもシンナーの関係で塗装がいつになるか

「確かに事故車はシンナーの関係で塗装が厳しいんです。新車も納車延期が発生しています。今週からオイルが厳しくなってきました。アドブルーは中身より容器でしょ。国の役人は見通しが甘すぎますね」

「意図的な政府と現場の「ズレ」

中東情勢による深刻な影響が広がっているにもかかわらず、政府は依然として「備蓄はある」などと楽観的な見通しを続けています。政権支持率保持、トランプ支持のために、

### ダンプナンバー問題を 働き方改革に

4月から施行された改正貨物自動車運送事業法により、荷主に対する白ナンバー利用規制が実施されています。低単価、長時間労働、過積載など、問題の根源にナンバー問題があるのは事実です。

組合では白ナンバーの就労支援と並行して、

5月16日開催した学習会には8人が参加、

意図的に現場の実態を無視しているとしたかと思えません。官邸幹部はカルビーのポテチ袋白黒化を「売名行為」と切り捨てています

政府は補正予算の編成や補助金の創設、そして国民の切実な要求消費税減税を早急に具

て、長期的な展望に立ち営業ナンバー取得を検討する組合員を支援しています。

県本部石井書記長（有資格者）が講師となり、効率的な試験対策などを学びました。ダンブ支部梅田委員長「まさかこんな時代が来るとは思いませんでした。いまの業界は運送事業者としてやっていける状況ではないと思います。私たちの世代が業界の将来を真剣に考えて、変化に対応できる準備はしておきたいと思っています」。

建設国保加入者  
建設国保加入組合員は現在115人にまで増えています。

建設国保の「適用除外」とは、本来は協会けんぽ等の健康保険に加入すべき法人事業所や常時5人以上の従業員を雇う個人事業所について、年金事務所

健康保険被保険者適用除外の承認を受けることで、厚生年金は加入しつつ健康保険だけは建設国保（国民健康保険組合）にとどまることを認める制度です。法人社保からの変更はできません。

今後法人化を検討している建設国保加入者は、事前に組合にご相談ください。



5/16運管グループ学習会



「零細ほど資材が入らない。あっても高い。雨どいが入らなくて困った」須藤さん



油脂系部品供給不足。修理延期案件続出。いま戦争終結しても6月以降さらに厳しい。



三井化学の「国産アドブルー」。しかし容器のBIB内袋ひっ迫で供給不安に。

アドブルーとは、ディーゼル車の排ガス中の窒素酸化物を窒素と水に分解して有害成分を減らすための尿素水溶液です。

現在多くの大型ディーゼル車はアドブルーなしでは走行できません。

### アドブルー危機とは

「容器」です。主成分はナフサ由来の石油化学のため小売での供給が困難になっています。インタンク対応できる大手よりも個人、中小零細が影響を受けることになりす。

日本が輸入する多くがマレーシア産であり、一部国内でも生産されています。いま問題となっている「尿素ショック」を教訓としなかった政府の責任は重大です。

「物流が止まれば市民生活が止まる」にもかかわらずアドブルーは経済安全保障推進法の対象品目に入っていない。高市政権は米国兵器爆買の前にやるべきことがあるはずだ。

◎関東ダンプ協議会のホームページで「白ナンバー問題」の特設サイトがアップされています。「関東ダンプ」で検索してください。

# 危機候

# 今年も猛暑・熱中症対策を



冷房の効いた車内と屋外との温度差により短時間作業でも身体への負担は大きくなります。

建設業1位、運送業3位、若者に人気のある業種ではありません。昨年度の熱中症による死者数順位です。熱中症の影響と思われる組合員の転落事故も発生しています。今月すでに33.3℃を記録(佐野市5月19日)。気象庁は今年も猛暑になることを予想しています。昨年6月から事業者の熱中症対策が義務化されています。いまから命を守る対策を。



事故車両ではありません

昭和53年都内葛飾区で組合員が起こした左折事故により自転車の母子3人が死亡。安全窓は尊い犠牲のうえに義務化されました。

この事故の裁判で検察側は、運転手が乗務していたトラックの助手席側窓ガラスや安全窓に黒色のフィルムが貼られていたことから、自ら視認性を低下させていたと指摘し「従前から安全な車両運行を行おうという意思が著しく乏しかった」と述べ「被告人の無責任な運転態度の危険がまさに現実化し

た事実であり、起こるべくして起こったと言っても過言ではない」と結論付け、拘禁刑2年6か月を求刑しました。今年4月14日、松江地裁は1年6か月の実刑判決を言い渡しました。

判決理由で裁判官は被告が「助手席の窓に黒色フィルム等を貼付するなどして更に視認性を下げた車両を運転」していた点を「安全軽視の姿勢は甚だしく、その過失は非常に重大である」と厳しく指摘しました。過失運転致死としては大変重い判決です。

## 安全窓にフィルム 悪質と実刑判決にム

2026年1月、島根県松江市で大型トラックが交差点を左折する際横断歩道上の小学生(8歳)と接触する事故が発生、小学生は亡くなりました。

## 「白合法化」幻の3省通達

### 業界圧力で闇に葬られる

1982年、総理府、労働省、運輸省の3省は協議し、白ナンバーダンプの「違法性」を解消するため「車持ち労働者として雇用されるダンプカー運転者に係る取扱い案」を作成、発出しようとしています。この案の骨子は、ダンプを特定の事業主に貸し渡した上、その指揮命令下で労働する場合、労働基準法上の労働者として取扱うとともに、道路運送法(当時)上の「有償貸し渡しの許可」を得させることで白ナンバーでの運搬を合法化しよう

## つくられた白ナンバー⑤

とするものでした。労働者性を明確にするために「ダンプカー労働者手帳」の創設まで提案されていました。ところが、この「3省の取扱い案」は正式に通達されずに闇に葬られます。背景に業界の反対があったことが指摘されています。ダンプを安く使えなくなるからです。(立命館大学吉田美喜夫氏論文)

この通達が実施されていけば、白ナンバーダンプの働き方が大きく変わっていたことは間違いありません。実際、通達に示された方法で白ナンバーダンプを継続使用する砕石業者が現れています。

## 「団交拒否は誤り」 ヤマト運輸と勝利和解

### 組合「委託でも労働者」



4/23弁護士会館で記者会見

ヤマト運輸と委託契約で働いていた労働者が建交労に加入、団体交渉をヤマト運輸が拒否したため組合は東京都労働委員会に救済を申し立て闘ってきまし

た。ヤマト運輸は団交拒否の非を認め、委託組合員らの労働者性を事実上認めました。都労委で組合は、委託契約であってもヤマト運輸の業務に必要不可欠な労働力として組み込まれている実態を立証し、実態として労働者であることを主張してきました。様々な業界で委託や請負といった「非労働者化」が広がっています。ヤマト運輸闘争は、働く者の権利を守るうえで重要な成果を勝ち取りました。